

(様式⑦) 小学校・中学校)

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 豊かな心を持ち、自分の良さを知り、人とつながり協働する子	堺市立 南八下中 学校 校長 石山 陽
---	------------------------

令和6年度 重点目標 1..挨拶が響き渡り みんなが仲良く過ごせる学校に ～生徒の良さを認める教育活動の展開～ 2..健やかな心と体をつくりしっかり学べる学校に ～『学び考える楽しさを実感できる授業』の実践～ 3..タブレット・生徒用端末の活用 掃除が行き届いた学校に ～『業務の効率化』『学びの環境の整備』～
--

確かな学びの現状 学校全体では、生徒は穏やかであり、概ね静謐な教育環境が維持できている。そしてここ数年は、大阪府チャレンジテストにおいても、一定の水準が保たれている。また各家庭での学習に対する関心が高く、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただいていることも、落ち着いたある学校生活につながっている。しかし、家庭での学習習慣や読書習慣の定着については、学校アンケートからは肯定的な回答が低い傾向となっている。今後、より良い教育環境の充実のために、ICT活用授業の効果的な活用方法の確立と展開に取り組んで、未来を担う子どもたちの育成を図ることが重要である。 今年度は、これまでの取り組みをもとにして、より自ら学びに向かう姿勢の育成をすすめていく。	豊かな心・健やかな体の現状 教科指導や部活動、委員会活動、そして体育大会や合唱コンクールなどの様々な行事や取り組みを通して、「豊かな心・健やかな体」を育む教育活動を進めることができている。 子どもたちの心身の状況をしっかりと見極めながら、全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を府平均点、全国平均点を目標に向上させたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)		
								自己評価		学校関係者評価
確かな学び	授業改善	ICT機器の積極的な活用	教師用タブレット、生徒用パソコンを積極的に活用した授業展開及び校内研修の充実。小中連携した教育活動の推進となるよう系統的に実践。	・授業観察により確認 ・活用アンケート等の分析 ・積極的な研修(自己研修含む)	授業観察 実践報告	毎学期 年度末	◎ 教師用タブレット、生徒用パソコンを積極的に活用した授業展開ができている。	◎ 活用アンケートより、「生徒用パソコンを積極的に活用した授業展開ができた」との回答が8割を超えた。次年度も積極的に活用した授業展開を工夫していく。	◎	授業を参観し、生徒たちが静謐な教育環境のなか、一生懸命学習しているようすがよくわかった。またICTの活用がさまざまな教育活動において積極的になされている。
		主体的・対話的で深い学びの実現 (『学び考える楽しさを実感できる授業』の実践)	教師からの積極的問いかけや、班毎の意見交換、発表の場を設定した、考えて議論する問題解決学習的な授業展開。	・授業観察により確認 ・「授業が分かりやすい」の肯定的回答が85%以上。	授業観察 生徒学校教育アンケート	毎学期 年度末	○ 班毎の意見交換、発表の場を設定した、考えて議論する問題解決学習的な授業展開ができている。	○ 「授業が分かりやすい」の肯定的回答が85%(R5は82%)と達成した。次年度には「よくあてはまる」の割合を上げるよう授業改善をすすめていく。	○	
	学力向上	基本的な知識・技能の定着及び教科学力向上	少人数指導を効果的に展開する学習支援。	・授業観察により確認 ・「少人数授業や習熟度別授業はわかりやすい」の肯定的回答が85%以上。	授業観察 記録簿 生徒学校教育アンケート	毎学期 年度末	○ 少人数指導を効果的に展開する学習支援ができている。	◎ 「少人数授業や習熟度別授業はわかりやすい」の肯定的回答が2年生と3年生で84%となった。少人数指導を効果的に展開する学習支援ができたと考える。	◎	学校教育アンケートの結果、肯定的回答がほとんどの項目で昨年度を上回った。次年度は「よくあてはまる」の回答率の向上につながるよう、今後も子どもたちの学力向上、さらなる家庭学習習慣の確立を目指して頑張ってほしい。
		家庭での学習習慣の確立	●学習に対する興味関心を高める工夫や、学習状況に応じた適切な課題の作成。 ★ICTスキルの指導及び活用場面の設定。	「自分の学力向上のため、家庭での学習時間を増やしたりしている」の肯定的回答が85%以上。	保護者学校教育アンケート	毎学期 年度末	○ ・週末課題等の宿題の実施で家庭学習を促している。	○ 「自分の学力向上のため、家庭での学習時間を増やしたりしている」の肯定的回答が64%(昨年は60%)改善した。3年生については8割を超える肯定的回答だった。	○	
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	道徳授業の実践	●年間計画に基づく22分野の確実な実施。 ・日常生活の様々な場面、状況において、道徳的価値を実践することができるような内面的資質を育む授業。	・授業観察により実施状況確認。 ・「道徳では、心に残る内容の授業がある」の肯定的回答が80%以上。	授業観察 生徒学校教育アンケート	毎学期 年度末	◎ ・道徳授業を計画通り進めている。	◎ 「道徳では、心に残る内容の授業がある」の肯定的回答が87%(R5は84%)と改善した。今後もさらに内面的資質を育む授業改善に取り組む。	◎	学校教育アンケートの設問「先生はいじめや問題行動に真剣に対応している」の肯定的回答率が低いのは、「わからない」という回答が多くなったためではないか。
		読書習慣の定着	・できるだけ多く、昼休みの図書室の開室を実施する ・教科指導や学級活動、生徒会活動を通して、読書習慣の定着に全校で取り組む。	「普段、1日30分以上読書をしている」の肯定的回答が50%以上。	生徒学校教育アンケート	毎学期 年度末	◎ ・毎日昼休みに図書室を開室できている。 ・毎週金曜日の放課後も開室できている。	◎ 「1日30分以上読書をしている」の肯定的回答が30%(R5は29%)と目標を下回ったが、図書室への来室数は4826人と昨年(2581人)より倍増した。	◎	子どもの声から、先生方がいじめや問題行動の芽のうちに丁寧に対応していることと、保護者の声から問題行動に気付いた時点での早期の対応ができていると認識している。
		いじめ防止基本法に基づくいじめの根絶	●「積極的認知」によって、いじめの未然防止、早期発見・解決に取り組む。いじめアンケートや教育相談を適切に実施する。 ★仲間づくり、集団作り等学級活動の充実。	「先生はいじめや問題行動に真剣に対応している」肯定的回答が80%以上。	生徒学校教育アンケート	毎学期 年度末	○ いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組んでいる。いじめアンケートや教育相談を適切に実施している。	○ 「先生はいじめや問題行動に真剣に対応している」肯定的回答が57%と目標を下回った。次年度もより一層丁寧な対応を行い改善していく。	○	図書室については、読書だけでなく心の居場所となっている生徒もいる。毎日の開室ができて良かった。また週に1回だが放課後の開館ができた。次年度はおすすめ図書の紹介等を教室のテレビ画面での配信ができるようにすすめてほしい。
	体力向上	体力向上及び健康の保持増進	保健体育授業、部活動での鍛錬により体力向上を図る。生涯を通じてスポーツに親しみ、健康を保持・増進できるよう意識付けを行う。	体力合計点で全国平均点を上回る。	全国体力・運動能力、運動習慣調査	毎学期 年度末	◎ 保健体育授業、部活動での鍛錬により体力向上を図っている。	○ 2年生男子、1年生女子の体力合計点が全国平均を上回った。男子の持久走と50m走、女子の握力と50m走以外が若干下回った。	○	
信頼される学校	小中	小中9年間の児童・生徒の成長を図る小中連携の推進	★小中連携の年間計画に基づく実践 ・小中授業交流、小中合同研修 ・児童生徒の学習や部活動交流 など	実施状況。	実践報告	毎学期 年度末	○ ・小中合同研修を3回実施した。 ・児童生徒の部活動交流ができた。	○ 小学校給食の見学会を実施し令和7年6月からの中学校給食開始に向けて、準備をすすめることができた。	○	健全育成の取り組みとして、地域清掃、バレーボール大会、卓球大会を行った。地域交流を進めることができている。
	適切な情報発信	保護者や地域に対して、学校運営・教育活動を適切に発信することで、「開かれた学校」「信頼される学校」づくりを推進	・学校ホームページ更新、学校だよりや学年だより発行を通して学校情報を保護者・地域に発信する。 ・開かれた学校に向けて、授業参観・オープンスクール及び各行事で保護者が来校する機会を設ける。	「学校の様子や学習内容を懇談や各種の通信、ホームページ等で知ることができる」の肯定的回答が85%以上。	保護者学校教育アンケート	毎学期 年度末	◎ ・学校ホームページをほぼ毎日更新している。 ・授業参観、オープンスクール、体育大会、文化活動発表会で保護者が来校する機会を設けた。	◎ ・「学校の様子や学習内容を懇談や各種の通信、ホームページ等で知ることができる」の肯定的回答が88%だった。今後もより開かれた学校に向けて、来校機会を増やしたりホームページの更新等を行う。	◎	教科指導やICT活用にとどまらず、9年の教育課程全体を通して切めない取り組みをめざしてほしい。

校長より(年度末) 学校教育アンケート「子どもの教育の充実のために教員の負担軽減は重要であると思う」の肯定的回答率が88%でした。ご理解いただきありがとうございます。tetoruの活用や電子教科書、デジタル採点支援システムの活用等により負担軽減をはかり、教員が子どもに向き合う時間をしっかりとれるようすすめてまいります。 南八下中校区として小中連携をさらに充実したものにしながら取り組みを行ってまいります。関係者の皆様の評価を教育活動に生かし、来年度も取り組んでいきます。今後も引き続き保護者の皆様、地域の皆様の本校教育活動へのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。	学校関係者評価者から(年度末) 子どもたちは文武両道にがんばっており、学校教育活動は順調である。学校生活においても、子どもたちはよく取り組んでおり、今後も充実した取り組みをお願いしたい。
---	--